



新任のあいさつ

～サステナブルな七友会を目指して～

七友会会長 長澤 秀則

このたび遠藤隆会長からバトンを受け、会長となりました3期生の長澤秀則と申します。在学中は「行動科学専攻コース」に在籍しており、心理学や社会学の勉強をしておりました。前会長が取り組み、実績を挙げた「財政健全化」や「次世代の体制づくり」をベースに、持続可能な「サステナブルな七友会」のあり方を皆様とともに考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

2021年だったでしょうか。盛岡市役所の先輩でもある中野玲子さんから、理事と40周年同窓会の実行委員会をやらないかと誘われたのが、始まりでした。1期生中心の実行委員会は10回以上の会議がありましたが、明るく、前向きな雰囲気がとても心地良く、あつと言う間に2022年7月2日の開催の日を迎えました。懐かしい先生や同期との再会、新たな先輩や後輩との出会い、会員でもあるお笑い芸人「村民代表 南川」さんのトークショーなどを交え、大変盛り上がりました。小川学長には「人社同窓会ならではのユニークな記念事業で大変楽しかった」とお褒めの言葉をいただきました。

さて、今年6月の評議員会におきましては、評議員会と理事会のあり方、役員の若返り、支部組織づくり、事務局体制や活動のあり方など、様々な提言がありました。また、現在、人社の学生の女性と男性の割合は、「7：3」に近い状況とのことで、女性役員をもっと増やすべきだという意見もありました。

一般的に同窓会は「堅苦しそう」「関わると面倒なことになりそう」等のイメージを持たれることが多く、運営が難しい時代を迎えています。これまでの実績や歴史を大切にす一方、新しい時代に向かって「何を目指し、何をすべきか、どう運営するのか」など、持続可能な同窓会のカタチを考える必要があります。

七友会会則には「会員相互の親睦と母校の隆盛を図り、社会の発展に寄与することを目的とする。」と記されています。七友会が、懐かしい友人と会うだけの場所ではなく、新たなつながりや新たな化学反応を生み出すきっかけの場となるよう、変化を恐れずチャレンジしたいと思っております。

今回役員に初めて10期生以上の若い(?)世代が入りました。ちょっぴりフレッシュな体制のもと、多様な世代や職業人が参加したくなる「サステナブルな七友会」を目指して、一歩ずつ前進していきたいと思っています。